

文字認識から単語レベルの読みができる児童の育成

～ローマ字をきっかけにした段階的な文字指導を通して～

1 設定理由

2020年から小学校3・4年生での外国語活動導入と小学校5・6年生での外国語科の教科化が打ち出されている。外国語科が教科化されることにより、特に文字指導については、英語に対して苦手意識を持ったり英語を嫌いだと思ったりする児童を生まないためにどのように指導したらよいかという点は重要な課題である。そこで本支部では、一昨年度から中学校とのスムーズな接続をめざした文字の導入や、外国語使用への有用感と関心を高めるための言語活動について実践を重ね、継続的に研究を進めてきた。文字指導の在り方について研究する中で、児童がすでにアルファベットと出会っていることに気が付いた。ローマ字である。そこで既習事項である国語科のローマ字の理解と英語の理解にはどのような関わりがあるのかという疑問を持った。

小学校3年生の国語科では、「ローマ字」の学習が行われ、児童は日常的に、ローマ字表記が添えられた案内板やパンフレットを目にする機会を多く持っている。そこで、ローマ字を復習することをきっかけにして、その後文字に触れる場面を多く設定した文字を扱った指導から、児童の知りたい、使いたい文字や単語を読んだり、写し書きしたりする文字指導へと段階的に活動していけば、自然とアルファベットや簡単な英単語を読むことができるようになるのではないかと考え、本主題を設定した。また、この研究では、文字認識の基本として、アルファベットや今まで慣れ親しんできた単語が読めることをめざした。

2 研究仮説

ローマ字の学習をきっかけにし、文字に触れる活動を段階的に行っていけば、アルファベットや慣れ親しんだ簡単な英単語が読めるようになるであろう。

3 研究内容

(1) 児童の実態を把握する。

(2) 実践内容

① きっかけづくり（ローマ字の復習）

② 文字に触れる場面を多く設定した活動（インプット）

③ 文字に触れる場面を多く設定した活動（アウトプット）

(3) 事後調査

4 成果と課題

○国語科のローマ字の学習は、児童がアルファベットに触れる良い機会となる。

○少しずつ負荷をかけていく段階的な指導により、アルファベットや慣れ親しんだ英単語が読めるようになった。

●ローマ字はアルファベットの興味を高めるのに一定の効果はあるが、「英語とは違う」ということを意識させていく必要がある。

文字認識から単語レベルの読みができる児童の育成
～ローマ字をきっかけにした段階的な文字指導を通して～

1 設定理由

文部科学省により、2020年から小学校3・4年生での外国語活動導入と小学校5・6年生での外国語科の教科化が打ち出されている。外国語科が教科化されると、より一層学級担任の「専門性」が求められることになる。特に文字指導については、英語に対して苦手意識を持ったり英語を嫌いだと思ったりする児童を生まないためにはどのように指導したらよいかという点は重要な課題である。

そこで本支部では、一昨年度から中学校とのスムーズな接続をめざした文字の導入や、外国語使用への有用感と関心を高めるための言語活動について実践を重ね、継続的に研究を進めてきた。文字指導の在り方について研究する中で、児童がすでにアルファベットと出会っていることに気が付いた。ローマ字である。そこで既習事項である国語科のローマ字の理解と英語の理解にはどのような関わりがあるのかという疑問を持った。

現在本校では、1年生から4年生まで年間6回の外国語活動の時間を設けており、ALTや外国語指導補助教員と共に、アルファベットの大文字や、簡単な英単語に触れる機会を持っている。また、3年生の国語科では「ローマ字」の学習が行われ、その後パソコンの文字入力でもローマ字を活用する。今後3年生で外国語活動が本格的に行われるようになると、3年生児童は外国語活動と国語科のローマ字の学習を並行して行うことになる。だからこそ、外国語活動においてローマ字は無視できない存在となる。学級担任はこれまで以上にローマ字と英語の関わりについて理解したうえで指導する必要があるのではないだろうか。

また、学区の中学校1年生～3年生に調査すると、「英単語を読むときにローマ字の知識は役立つ」とした生徒がおよそ9割いた。英語とローマ字の音に違いがあることを理解している中学生も、身近なローマ字を英語学習に活用しているようだ。

本学級36人の児童のうち慣れ親しんだ英単語が読める児童は3人しかいないが、「英単語が読めるようになりたいか」という問いに対して、36人全員の児童が「読めるようになりたい」と願っているということがわかった。(5月9日)

簡単な英単語が読めるようになりたいと願う児童のために、このような背景を踏まえ、児童に馴染みのある「ローマ字」を簡単なローマ字読みができる程度まで復習することをきっかけにして、文字に触れる場面を多く設定し、児童の知りたい、使いたい文字や単語を読んだり、写し書きしたりする活動を段階的に行っていけば、自然とアルファベットや簡単な英単語を読むことができるようになるのではないかと考えた。文字の入門期の指導こそもっとも難しく、重要であると考え、本主題を設定した。なお本研究では、文字認識の基本として、アルファベットや今まで慣れ親しんできた単語が読めることをめざした。

2 研究仮説

ローマ字の学習をきっかけにし、文字に触れる活動を段階的に行っていけば、アルファベットや慣れ親しんだ簡単な英単語が読めるようになるであろう。

児童は3年生の国語科において「ローマ字」の学習を行い、アルファベットと出会う機会を持っている。授業以外でも、日常生活の中でローマ字表記が添えられた案内板やパンフレットを

見たり、地名や人名などの固有名詞を含めた簡単なローマ字の単語を読んだりしている。コンピュータを使う機会も増えていくことから、ローマ字は児童にとってなじみ深い身近な存在であるといえる。また、本校卒業生が在籍している小糸中学校の1年生から3年生へ「ローマ字の知識は英語の学習に役立っているか」や「小学校での外国語活動がどのようなことに役立ったか」についてアンケート調査を実施した。「ローマ字の知識は英語の学習に役立っているか」という質問では「読むことに役立っている」が86%、「書くことに役立っている」が87%と多くの中学生がローマ字の知識を英語の学習に活用しているということがわかった。

また「小学校での外国語活動が中学校での英語学習に役立っているか」という質問では、「読むこと」が77%、「書くこと」が64%と、「聞くこと」「話すこと」と比べ低い結果となった。

そこで本研究では、これまでの「聞くこと」「話すこと」を重視した外国語活動に加え、「読むこと」に力を入れてとりくむことにした。「読むこと」ができるようになることで、「書くこと」へとつながっていくと考えたからである。

これまで児童は、小学校の外国語活動を通して学習した「ぼんやりとした知識」を、中学校での英語学習を通して「はっきりとした知識」にしていく段階を経ている。

しかし、文字指導においては「読めない」「わからない」というのは児童にとって不安であり、「ぼんやり」とした文字指導は、外国語活動が嫌いになる要因と成り得る。

これまでのとりくみでは、児童にとってローマ字を理解するのに十分な時数が確保されておらず、ローマ字の知識が定着していないのが現状である。

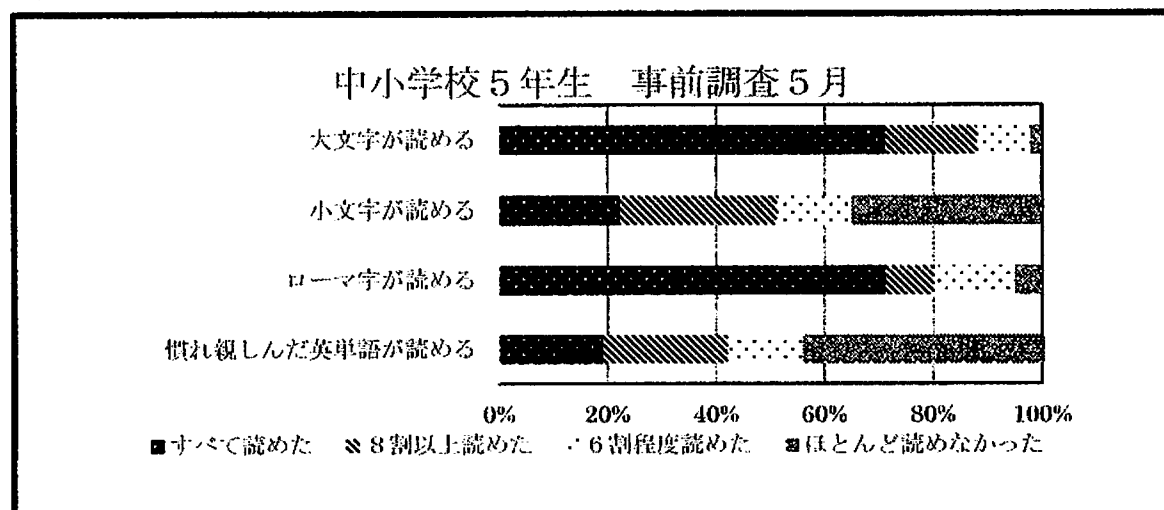
そこで、児童にとって知っている存在のローマ字をきっかけにすることで、文字の入門期の不安を軽減する一助になると考えた。また、文字を扱った指導から文字指導へと少しずつ負荷をかけ、段階的に指導していくことで、児童が苦手意識を持つことなく文字の学習が行っていきえると考えた。

以上の点を踏まえ、国語科のローマ字の学習をきっかけにし、文字に触れる活動を段階的に行っていけば、アルファベットや慣れ親しんだ簡単な英単語が読めるようになるであろうと考え、上記の仮説を設定した。

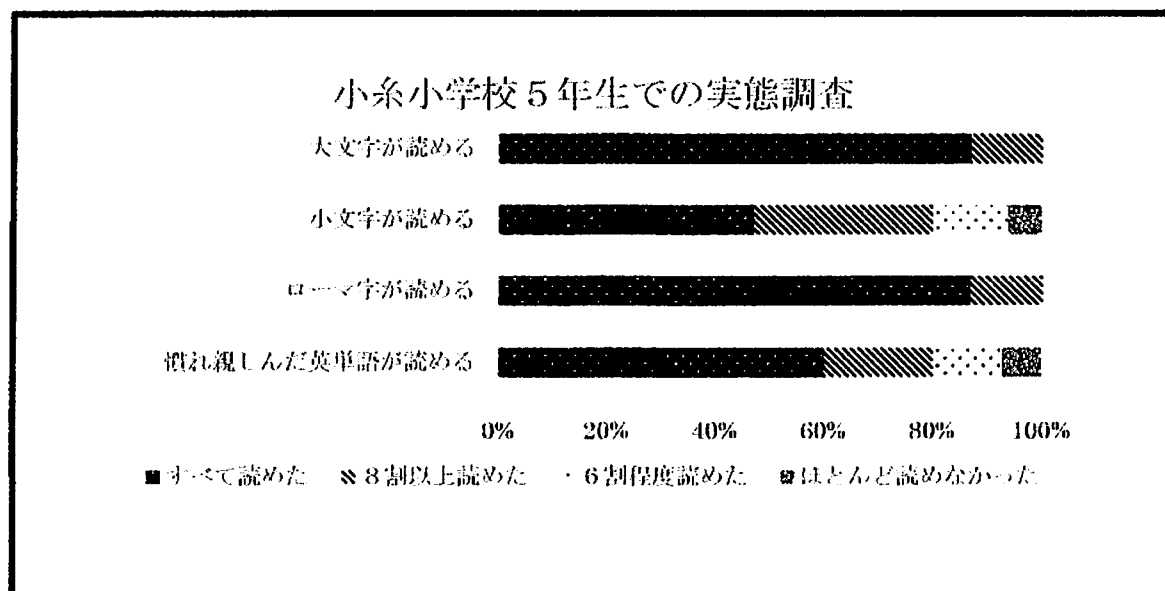
3 研究内容

(1) 児童の実態を把握する。

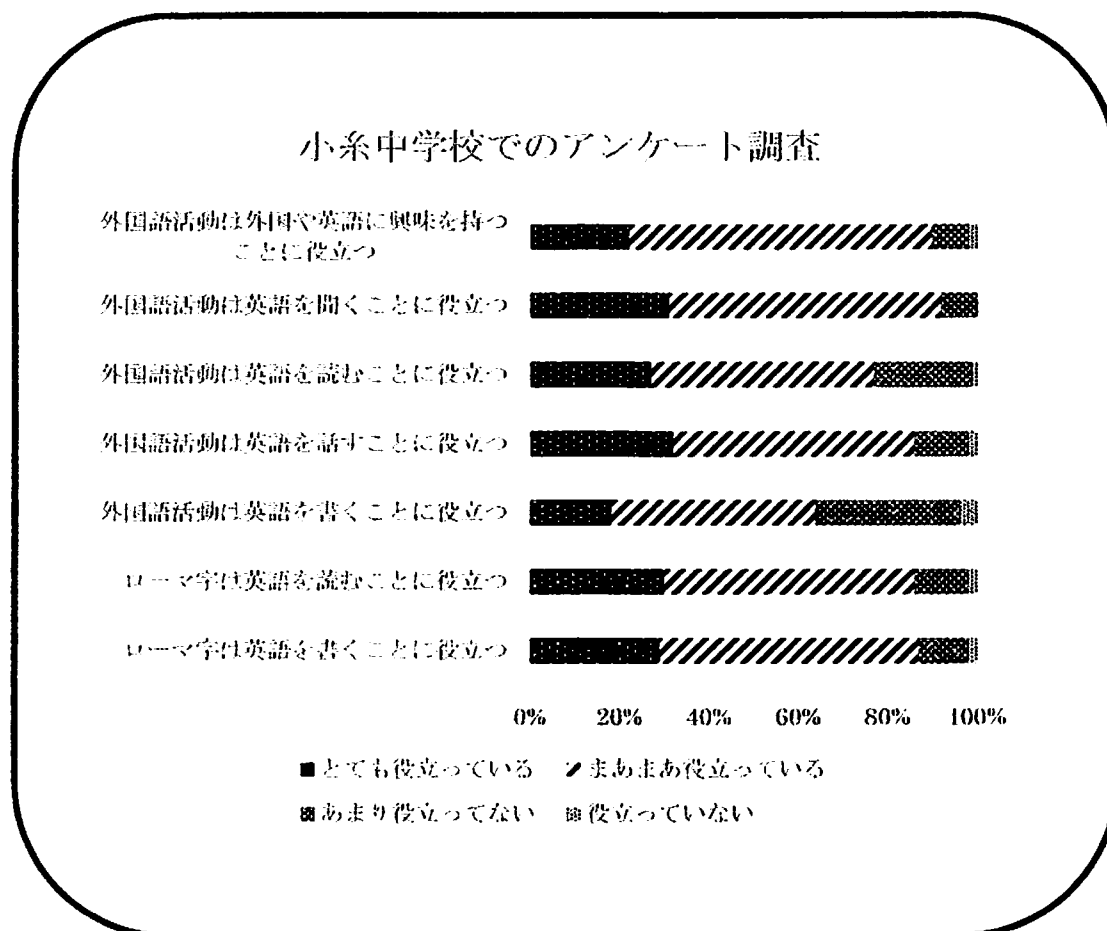
(ア) 中小学校5年生への実態調査 (35人)



(イ) 小糸小学校の実態調査



(ウ) 小糸中学校（※）の実態調査 （※主に中小学校と小糸小学校の児童が進学）



【考察】

中小学校 5 年生の事前調査では、アルファベット順では、30 人の児童が大文字を正確に読むことができ、ランダムに 1 つずつ提示すると 17 人の児童が正確に読むことができた。このことから、児童は文字認識をしているのではなく、慣れ親しんだ ABC ソングの歌詞を暗唱しているだけでアルファベットの形と音が一致していないということがわかった。つまり、アル

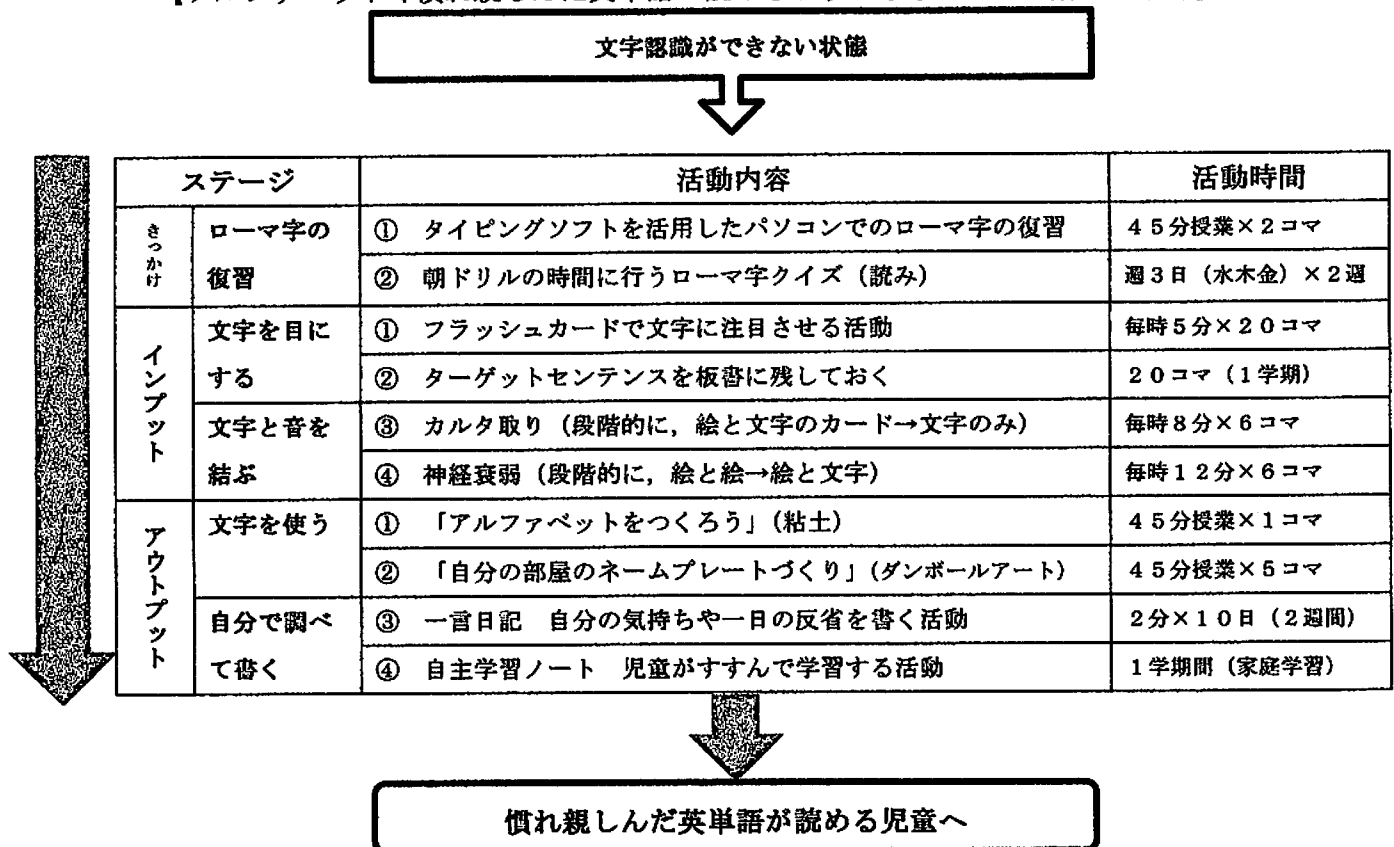
ファベットの文字を認識させるためには、ABC ソングを歌うだけでは、不十分である。アルファベットの形と音を一致させるため、繰り返しアルファベットの形や音に触れる活動を行う必要があると考えた。

中小学校と小糸小学校のアンケート調査から、ローマ字の知識がある児童は、アルファベットの大文字や小文字が読める傾向にあるとわかった。このことから、3年生での国語科のローマ字の学習は、児童がアルファベットに触れる良い機会であるといえる。

また、小糸中学校のアンケート調査によると、これまでの外国語活動は中学校の英語学習に役立っているが、読むことや書くことでは、あまり役立っていないとする生徒が、聞くことや話すことに比べると多かった。これからは、アルファベットや簡単な英単語を読む経験も小学校で行うことが必要であると改めて感じた。

(2) 実践内容 (中小学校5年生 35人)

【アルファベットや慣れ親しんだ英単語が読めるようになるための段階的な指導】



① きっかけづくりとしてのローマ字の復習

(ア) タイピングソフトを活用したパソコンでのローマ字の復習

児童は、3年生の時にローマ字を学習しているが、ローマ字の読み書きを十分に理解していない。ローマ字の知識のある児童は、そうではない児童よりアルファベットを読んだり、書いたりできる傾向にあると感じた。また、今後3年生でローマ字の学習と外国語活動が並行して行われることから、ローマ字と英語の関係を探るためにも、ローマ字の復習を取り入れることにした。今回扱うローマ字については、英語学習に生かすため、ヘボン式を扱うこととする。ローマ字は児童にとって身近な存在であり、国語科の既習事項である。そのため、ローマ字の

復習は、児童にとって、抵抗なくアルファベットに触れることができる活動であると考えた。ローマ字を復習するにあたり、ローマ字は日本の名前や地名をアルファベットで表したものであり英語とは読み方が違うということをまず初めに確認した。それから、タイピングソフトを使いパソコンでローマ字を復習する時間を設定した。(45分×2時間) 児童はそれぞれの課題に応じて活動した。今後もパソコンを活用した各教科の調べ学習等で、ローマ字に触れることになる。

(イ) 朝ドリルの時間に行うローマ字クイズ(読み)

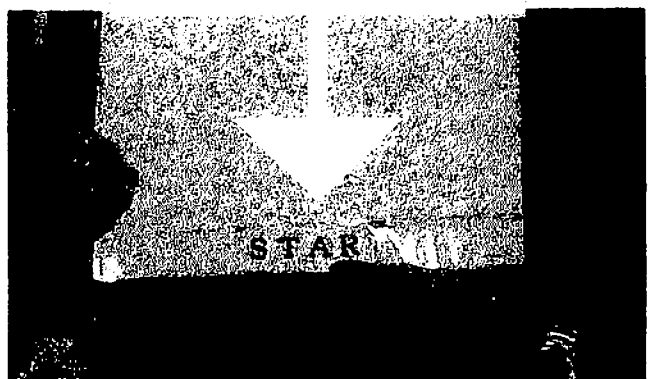
本校では、朝8:10～8:20までの10分間、月、火は読書タイム。水、木、金はドリルタイムとなっている。そこで今回、水～金のドリルタイムを活用して、ローマ字クイズを行った。(3日間×2週間の合計6日間)

問題は毎回3問として、「KIMITSU (きみつ)」、「TENPURA (てんぷら)」などの短い単語から「SUIEI GAKUSHU HA ARIMASU (すいえいがくしゅうはあります)」といったような文章などを出題した。読み方がわからない児童はアルファベット表(児童が持っているもの)を見ても良いこととした。クイズ形式で毎回行うことで、楽しみながらアルファベットに触れることができると考えた。

② 文字に触れる場面を多く設定した活動(インプット)

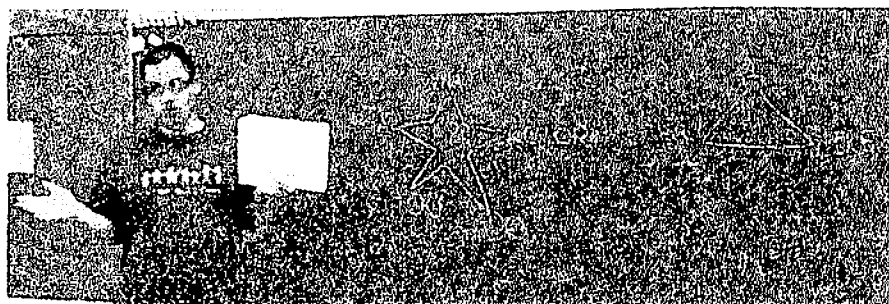
(ア) フラッシュカードで文字に注目させる

アンケート調査によると、児童は慣れ親しんだ英単語があまり読めないということがわかった。毎回の授業で使っているカードには絵と英単語が書いてあるが、児童はあまり文字を見ていないといえる。ALTと新しい英単語を発音する場面を注意して見ると、下を見たり、窓の外を眺めたりしながら、ただALTの発音を繰り返す声に出している児童がいた。そこで、今まで以上に児童が文字に注目できるように、いくつか改善を行った。まず、絵カードを見せながら、指で文字を指すようにした。そうすることで、今まで以上に文字に注目するのではないかと考えた。次に文字だけを見せ、教員の後に続けて発音させた。日頃から絵カードの一部だけを見せ、どの絵カードか考えさせることは行っている。このように、絵カードに文字が添えられてある状態の文字を扱った指導から、文字のみを見て発音する文字指導へと段階的に行っていくことで、児童は不安を抱えることなく文字を学習することができると考えた。



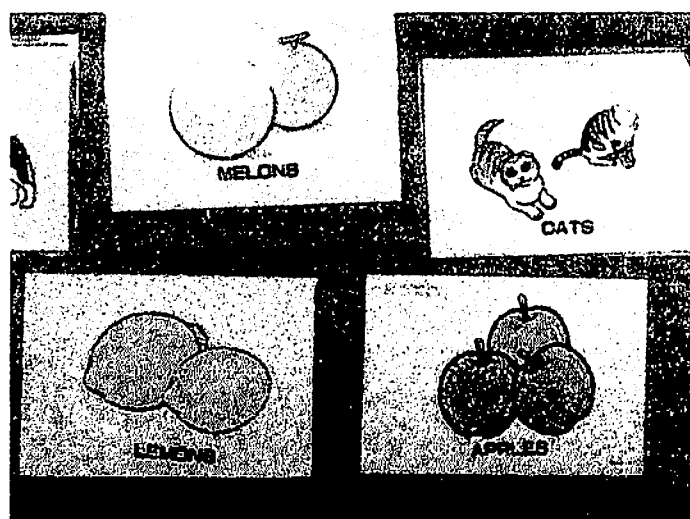
(イ) ターゲットセンテンスを板書する

毎回の授業であつかうターゲットセンテンスは板書に残し、活動を助ける手だてとした。活動中に児童がターゲットセンテンスを言えないときは、板書を指しながら一緒に発音するようにした。そうすることで、活動中に黒板の英語で書かれたフレーズを助けとする児童が増えると考えた。



(ウ) カルタ取り 絵と文字→文字のみ

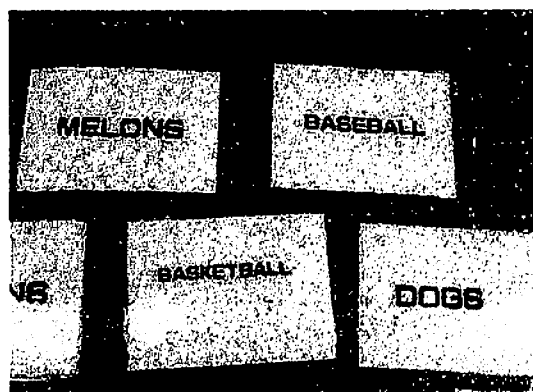
児童がカルタ取りを行う際に使用するカードには、教員用と同じように英単語を表記するようにした。そうすることで、児童が英単語を目にする機会を少しでも増やそうと考えた。また、何度か活動した後に、英単語のみが書いてあるカードで毎回カルタ取りをやることとした。毎回必ず行うことで、児童は「次は英単語カードでカルタをやる」と考え、絵カードでカルタをやっているときから意図的に英単語を覚えようとするのではないかと考えた。



カルタ取りについては能力差が出るため、苦手な児童が取りやすいような教員の工夫や「GO」の合図がかかってから取る。カードを取った児童が読み手になる等の工夫をして行った。また、ペアで行う、1人ずつに用紙を配り、読まれた絵と単語の上におはじきを置くなど、児童の様子を見ながら活動の仕方を変えて実施した。いろいろな行い方でとりくむことで、苦手な児童も楽しく活動できると考えた。

(エ) 神経衰弱 絵と文字→文字のみ

神経衰弱もカルタ取りを行う時と同じカードを使用した。最初は絵と文字が入ったカードを使用し、同じカードをペアにするルールで行った。2回目以降は絵と文字が入ったカードと英単語のみのカードをペアにする活動を行った。段階的に行うことで抵抗感なく活動できると考えた。また、ペア対抗戦を行うことで、苦手な児童に得意な児童が教えてあげるなど、協力してとりくむことをねらって活動した。

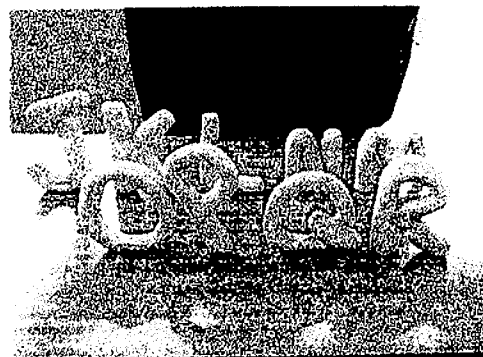


③ 文字に触れる場面を多く設定した活動（アウトプット）

～児童が知りたい、使いたい文字を扱った活動～

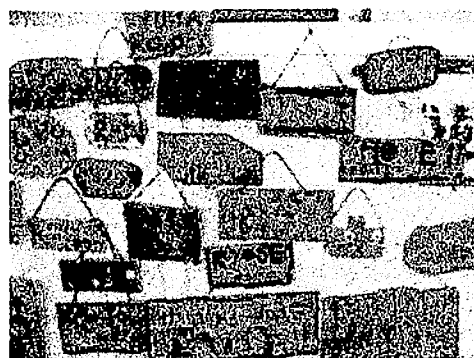
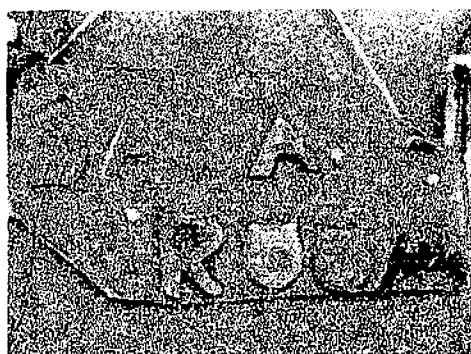
（ア）アルファベットをつくろう（粘土）

粘土を使ってアルファベットを作る活動を行った。大文字（26文字）をつくることにとりくんだ。小文字はわからないと感じている児童が多いため、早く出来た児童のみとりくむこととした。黒板に大文字と小文字のアルファベットカードを並べて貼っておいた。そうすることで、苦手な児童は黒板を見ながら粘土で文字を作り、自分の手でアルファベットの形を確認することができる考えた。出来上がったらその文字を声に出してから次の文字を作成することにした。出来上がったアルファベットは班ごとに持ち寄り、大文字と小文字をペアにして比べさせた。最後には、並べ替えたり、作り直したりして、自分の名前をアルファベットで作った。



（イ）ダンボールアート「自分の部屋のネームプレートづくり」

本学級には自分の名前をアルファベットで表すことができない児童が19人いる。児童は、外国語活動の時間にアルファベットで書かれた自分の名札をつけている。しかし、それだけでは自分の名前をアルファベットで表せるようになるには時間がかかる。作品作りを通して、アルファベットで表記された自分の名前を見たり、作ったりすることで、自分の名前が読めたり、表したりすることが自然にできるようになるのではないかと考えた。そこで「自分の部屋のネームプレートをつくろう」（ダンボールアート）を行った。児童は自分の部屋の扉にかけるネームプレートをデザインし、作成した。



（ウ）一言日記

児童はここまで、ローマ字の復習をきっかけにして、文字を扱った指導から、文字指導へと少しずつ負荷を加えながら学習してきた。時間が経つに連れて児童がアルファベットや簡単な英単語に興味を持ってきたと感じた。

そこで、毎日連絡帳に記入していた『一言日記』を英語で写し書きする活動を行った。「FINE」「HAPPY」などの黒板に掲示してある英語の簡単なフレーズから、自分の気持ちや反省に当

てはまるものを選び、書き写すことにした。児童が知りたいフレーズは、教員が板書し、児童はそれを写し書きした。また、自分で書ける児童は、選択肢から選ばず、自分で考えて書いても良いこととした。

(エ) 自主学習ノート

本学級では、宿題以外に自分で課題を見つけ、自主学習に1ページとりくむことになっている。児童は、自分の興味があることや、小テストや単元テストなどに向けた学習を“自主学習ノート”に行っている。“どの教科でも自分がとりくみたい課題にとりくんで良い”としているため、アルファベットや慣れ親しんだ英単語を書き写す学習を行う児童が増えるのではないかと考えた。

実践内容の結果と考察

「ローマ字の復習」では、パソコンのタイピングソフトを活用することで、児童の習熟度別に学習を進めることができた。また、楽しみながら活動することができ、「またやりたい」という声がたくさん上がった。

「ローマ字クイズ」では、慣れてくると自分で問題を作ってみたいという児童があらわれた。今後は教員が出題するだけでなく、グループで1つ考えたクイズを出題するなど、形を変えて行っていくことも児童の好奇心を刺激する良いとりくみになると感じた。

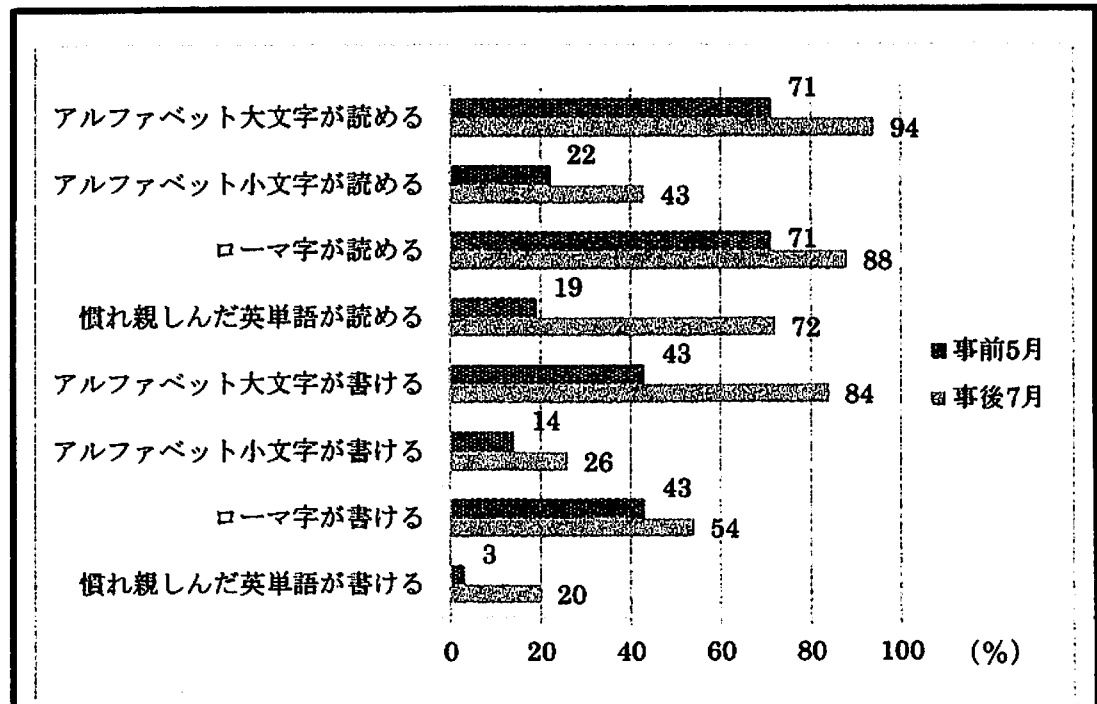
ローマ字は日本のものをアルファベットで表したものであると理解した児童は、自分が読めない英単語を目にすると「これは英語だ」と気が付くことができた。

「粘土でアルファベットをつくる活動」では、アルファベット順に作る児童や簡単に作れそうなものからとりくむ児童がいた。小文字はほとんどの児童が認識できていなかったが、「形が一緒に小さくなっただけだ」や「大文字と似ている」などの反応があり、大文字、小文字それぞれの形に着目する良い機会となった。早くできた児童は、自分で調べた英単語を作るなど楽しみながら活動することができた。アルファベットを寝かせたものは短時間で作れるが、自立したものを作った児童はけっこう時間がかかった。ていねいにつくことも大切だが、時間を決めたり、グループで分担させたりしてとりくむと時間内にたくさんのアルファベットをつくることのできるようだ。

「ダンボールアート」では、自分の家で使う作品づくりを行うことは児童にとってとても楽しい活動であり、自分の名前以外にも、「外出中」や「ノックして下さい」など、自分で使いたい英語の表現を調べて作品に取り入れる児童がいた。作品作りでは、児童の使いたいという気持ちを尊重した。スペルミスがいくつか起こったが、そのような児童には、積極的に英語のフレーズを使ったことを称賛し、「今回の間違いが正しく覚える機会になった」と声をかけた。

「一言日記」のとりくみでは、最初は“GOOD”や“HAPPY”など、1つの英単語で表現する児童が多かった。回数を重ねるうちに、少しずつ児童が書くフレーズが増えていった。自分の気持ちを“I am ～”で表現する児童も増えた。また、いろいろな表現を使ってみたいという気持ちになり、意欲的に活動する様子が見られた。毎日のとりくみだったので、苦手な児童に得意な児童が教えるなど、積極的に英語のフレーズを使うようになった。

(3) 事後調査 (中小学校 5年生 35人)



授業実践の前と後では、どの項目でも結果が上がっていることがわかる。今回は文字認識から、慣れ親しんだ英単語が読めることを目標に実践したが、書くことにも良い影響があるとわかった。ローマ字の復習をきっかけにして、文字を扱った指導から、文字指導へと少しずつ負荷をかけていく段階的な指導は、入門期の児童にとって一定の効果が見られた。

4 成果と課題

- 文字の入門期の指導として、ローマ字の復習をきっかけにした結果、アルファベットの形や音を認識したり、級友の名前や日本の地名を読んだりすることに、ローマ字の知識は有効であるとわかった。
- 少しずつ負荷をかけていく段階的な指導により、アルファベットや慣れ親しんだ英単語が読めることをねらいとしたが、結果として書くことでも成果があった。また、アウトプットの活動では、どの児童も書き写しを行っているが「自分は英語が書ける」と満足しているようだった。
- 大文字のみの指導だが、小文字も読めるようになった。
- ローマ字はアルファベットの興味を高めるのに一定の効果はあるが、「英語とは違う」ということも意識させていく必要がある。
- 今後の学習では、大文字から小文字へどのようにつなげていけば良いか研究していく必要がある。

【主な参考文献】

○君津市外国語活動年間計画

○埼玉県小鹿野町立小鹿野小学校 瀧沢広人 「小学生の“強み”を生かした英語授業」

2016年2月11日

○堀田誠 平野絹江 「音韻表象が日本人小学校3年生の英単語認知に及ぼす影響」

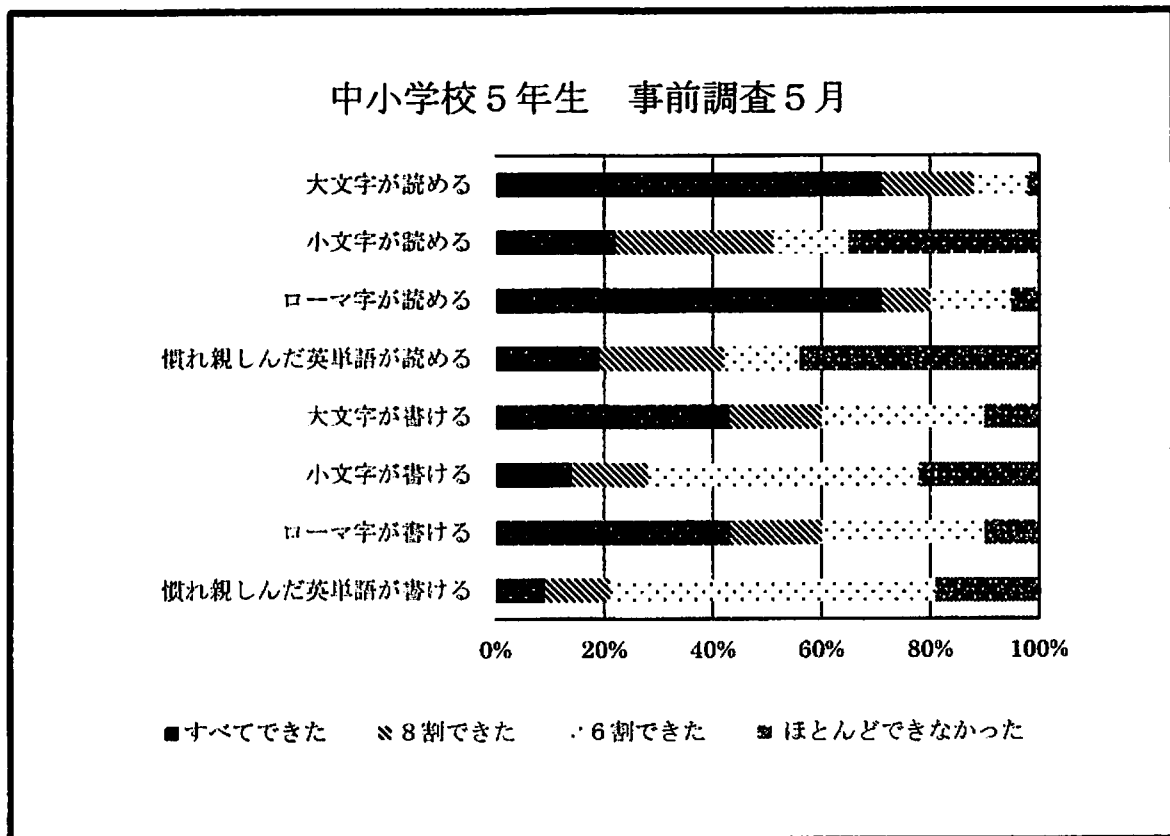
2013年

○平野絹江 堀田誠 「日本人英語学習者の語彙学習方略」 JASELE, 英語教育学の今 - 理論
と実践の統合 -, 156 - 159

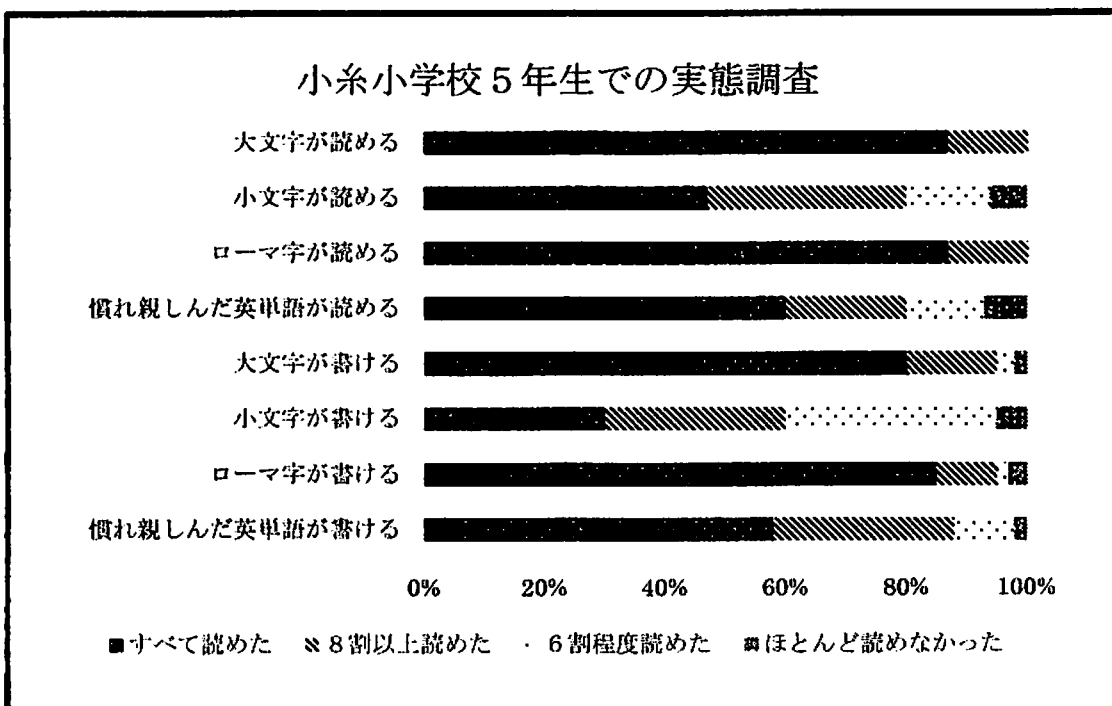
2014年

資料

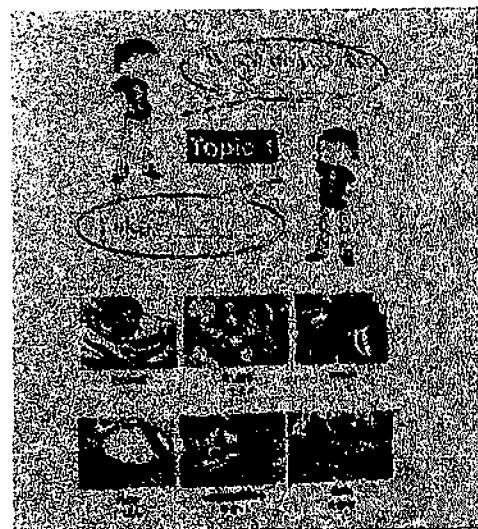
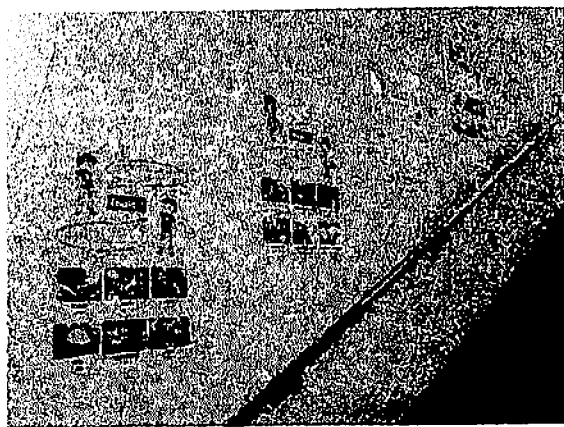
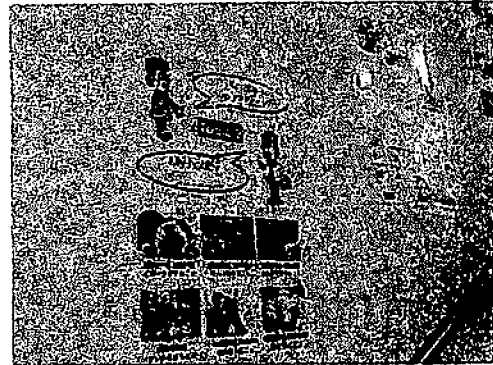
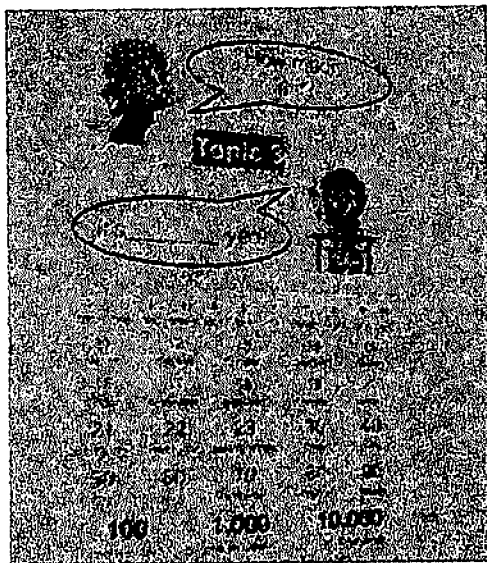
資料① 中小学校 5 年生への実態調査



資料② 小糸小学校 5 年生への実態調査



資料③ 小糸小学校の廊下掲示





資料④ 小糸小学校での実践

中小学校と同じく小糸中学校区にある小糸小学校では、2016年度より、文字に触れる場面を多く設定するための工夫を行っている。児童が文字に触れる場面を多く設定することで、自然とアルファベットや英単語に慣れ親しむことを目的とした。

(ア) 掲示物の工夫

児童が日頃からアルファベットや英単語に慣れ親しむことができるよう、廊下や階段に掲示物を貼った。掲示物はテーマを設定し、カテゴリーごとに掲示した。児童にとって身近な内容を扱いながら、定期的に掲示物を増やしていった。児童にとって、馴染みのある大文字で掲示物を作成した。

(イ) イングリッシュノートブックでの活動

児童が4線にアルファベットを書くことを体験させる目的として、イングリッシュノートブックを全員に配付した。廊下の掲示物と同じものを書き写させた。

結果と考察

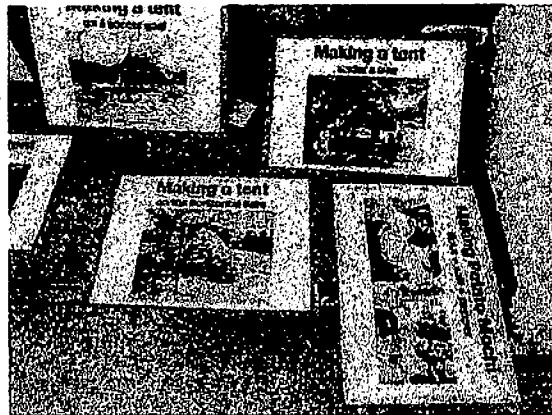
日常的に英単語を目にする機会が増え、児童は自然と英単語に慣れ親しむことができた。児童にとって身近な話題を扱ったため、新しく掲示物が増えると、「骨折してる」って英語で何って言うの?」などと言いながらイラストを指し、ALTに尋ねる姿が見られた。掲示物によって児童が英単語に興味を持ったといえる。また、大文字で掲示物を作成したことで、英単語に使用されているアルファベットが理解できた。理解できたからこそ、意欲的にイングリッシュノートブックに書き写すようになったと考えられる。4線にアルファベット

を書く体験をしたことにより、大文字の理解が高まったといえる。

廊下に掲示している英単語とイングリッシュノートブックでは、同じ英単語を扱ったことで英単語を目で読む、耳で聞く、手で書くといった段階的な指導ができた。

児童は目に触れ、授業で耳にし、書き写すという様々な活動を通して文字に触れたことで、楽しみながらアルファベットや英単語に触れることができた。

イングリッシュノートブックを活用して日頃から英単語を書き写す活動を行ったことで「英語が書ける」と感じているようだ。小学生にとって書き写すという活動は、意欲を高める有効な手立てであるといえる。



資料⑤ 小糸小学校のイングリッシュノートブック

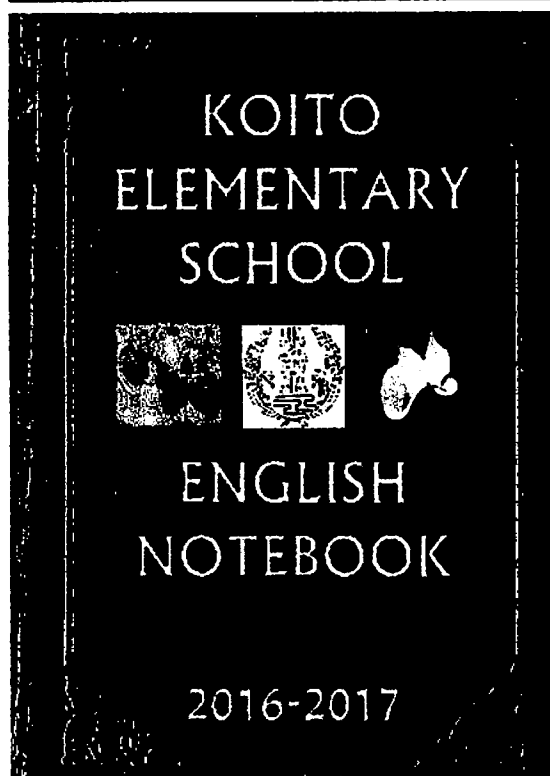
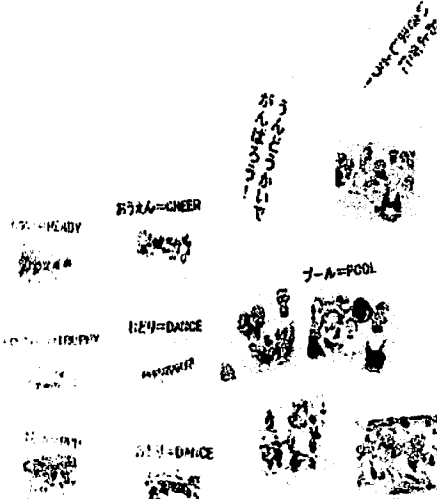


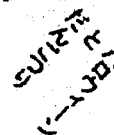
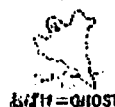
TABLE OF CONTENTS	
1-	WELCOME TO OUR SCHOOL
5-	HAVE A NICE GOLDEN WEEK!
5-	WHAT FOOD DO YOU LIKE?
5-	IT'S THE RAINY SEASON!
9-	DO YOUR BEST FOR THE SPORTS FESTIVAL!
9-	LET'S GO SWIMMING!
13-	ENJOY YOUR SUMMER VACATION!
17-	BACK TO SCHOOL
21-	HALLOWEEN AND DANGO TSURI
25-	CHANGING LEAVES
29-	MERRY CHRISTMAS!
33-	TAKE CARE!
37-	CONGRATULATIONS!
41-	PRINCIPAL'S MESSAGE (PART 1)
42-	PRINCIPAL'S MESSAGE (PART 2)

LET'S GO SWIMMING!



OCTOBER 14

HALLOWEEN AND DANGO TSURI



PRINCIPAL'S MESSAGE (PART 1)

This notebook was made by our ALT, Ryan, every month.

この本は、ALTのライアン先生が毎月作りました。

Every page was made into a poster near the teacher's room.

職員室の近くに掲示してありました。

These pages show the 4 seasons of the year.

それぞれのページは、一年の四季がわかります。

You can use these words in your daily life!

毎日の生活で使える言葉を選びました。

41

PRINCIPAL'S MESSAGE (PART 2)

Try to write and say ichigo (strawberry) and kara (Why) in English!

いちごや"カラ"を英語で書いたり、言ったりしてみよう!

Try to write and talk about the sports festival and pool activities in English!

運動会とプール活動を書いたり、言ったりしてみよう!

Try to write and talk about the colors of the leaves in English!

葉の色について書いたり、言ったりしてみよう!

Try to write and talk about winter activities in English!

冬の活動について書いたり、言ったりしてみよう!

Do you remember Ryan's foot injury? What did he use? Try to write and say it in English!

ライアンの足のけがを覚えていてる? ライアンは何を使っていた? 英語で書いたり、言ったりしてみよう!

Did you know that Halloween is like Dango Tsur?

ハロウィンとだんごつりが似ていることを知っていましたか?

Let's enjoy speaking and writing in English!

英語で話して、書いて、楽しもう!

Fujihira Chioko, Principal

校長 藤平智子

42

英語学習に関するアンケート

出身小学校 (小学校) 中学校 () 年生

このアンケートは、小学校での外国語活動をもっと良いものにするために行うものです。ですから、学校の成績とはまったく関係ありません。質問に答えて、あてはまるものを選んで下さい。

1 小学校での英語の授業や活動をふりかえって、次のようなことにどれくらい役立っていると思いますか。あてはまるものの番号を○で囲んで下さい。

(1) 外国や英語に興味を持つこと

1. とても役立っている 2. まあまあ役立っている 3. あまり役立っていない 4. 役立っていない

(以下同じ)

(2) 英語を聞くこと

1. とても役立っている 2. まあまあ役立っている 3. あまり役立っていない 4. 役立っていない

(3) 英語を読むこと

1. とても役立っている 2. まあまあ役立っている 3. あまり役立っていない 4. 役立っていない

(4) 英語を話すこと

1. とても役立っている 2. まあまあ役立っている 3. あまり役立っていない 4. 役立っていない

(5) 英語を書くこと

1. とても役立っている 2. まあまあ役立っている 3. あまり役立っていない 4. 役立っていない

2 ローマ字について、あなたにあてはまるものの番号を○で囲んで下さい。

1. 読める 2. だいたい読める 3. あまり読めない 4. 全く読めない

3 ローマ字の学習は、次のようなことにどれくらい役立っていると思いますか。あてはまるものの番号を○で囲んで下さい。

(1) 英語を読むこと

1. とても役立っている 2. まあまあ役立っている 3. あまり役立っていない 4. 役立っていない

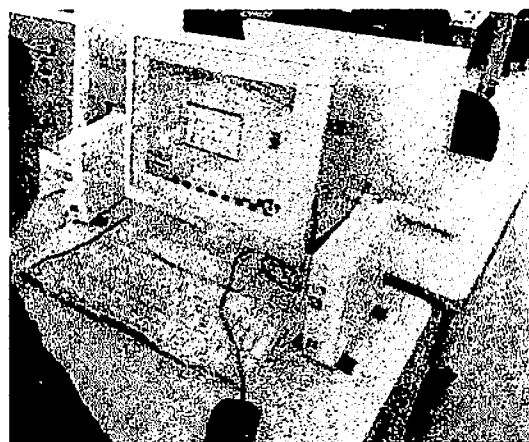
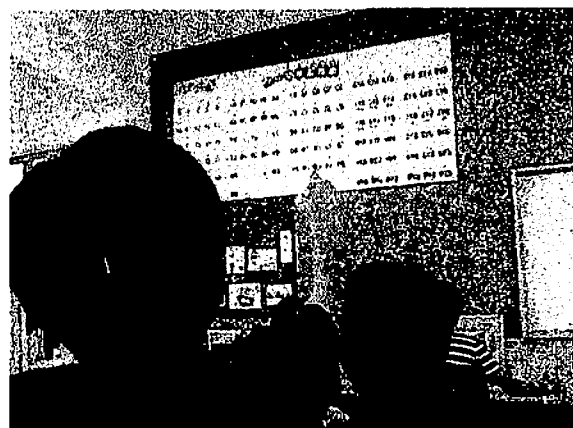
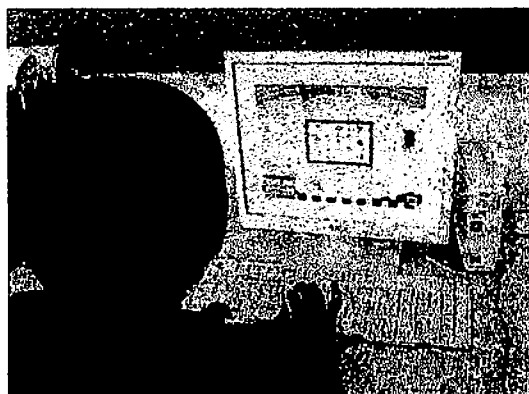
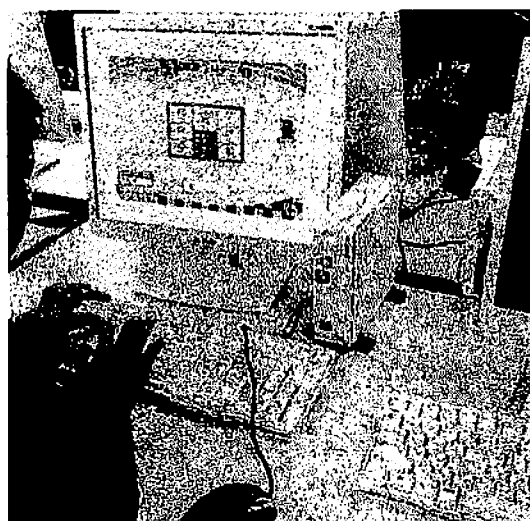
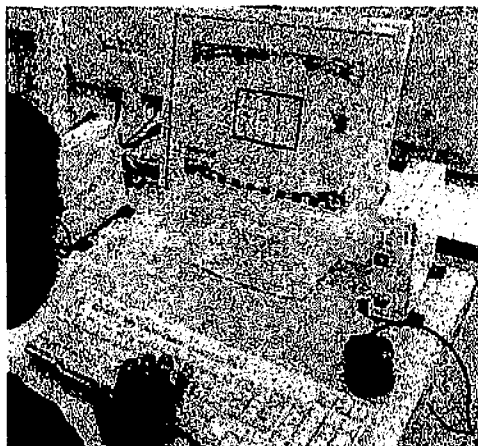
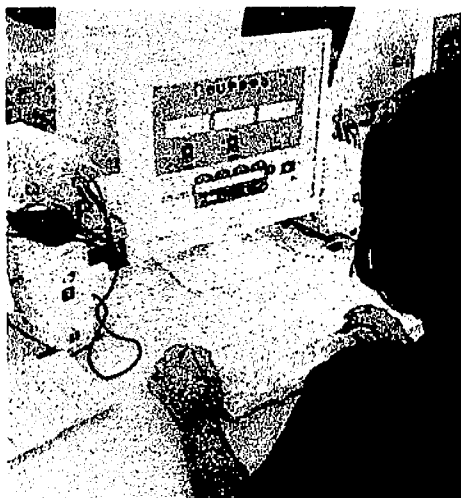
(2) 英語を書くこと

1. とても役立っている 2. まあまあ役立っている 3. あまり役立っていない 4. 役立っていない

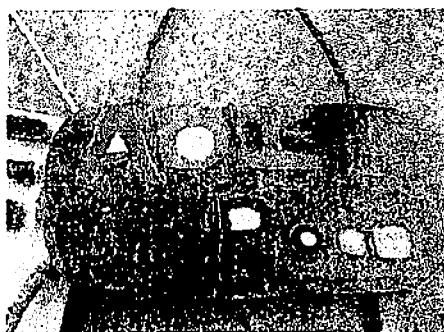
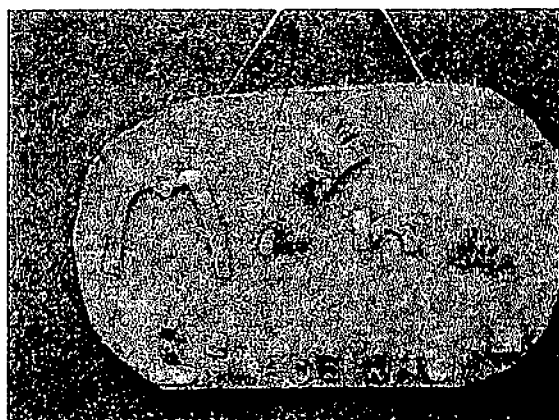
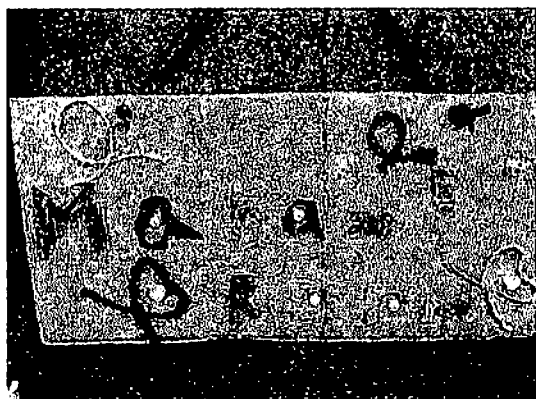
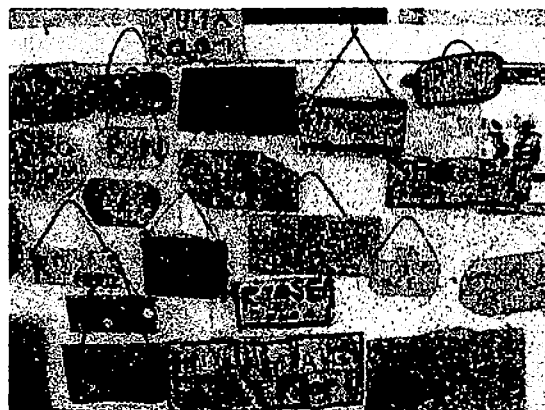
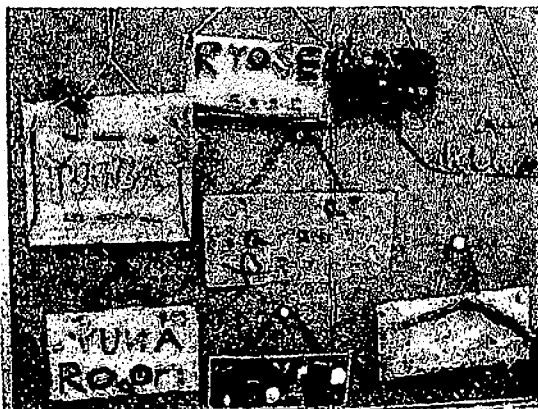
ご協力ありがとうございました。

※裏面は、「小学校の外国語活動を通してどんなことが役立ったか」について自由記述。

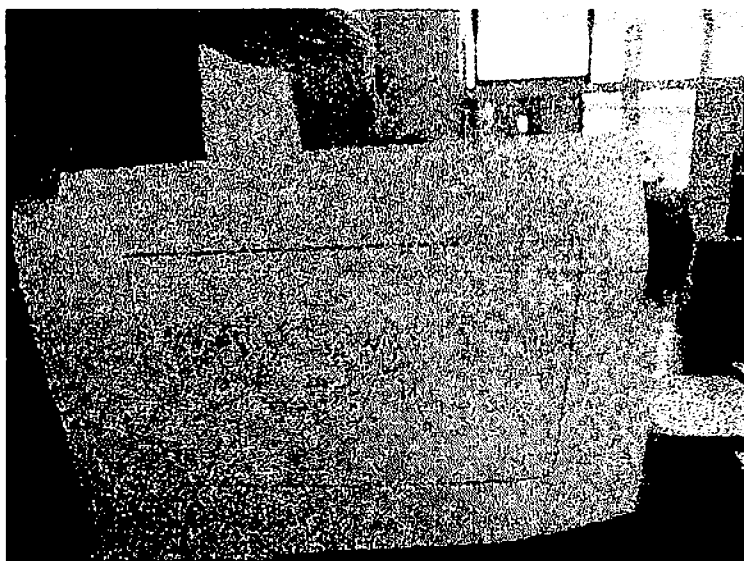
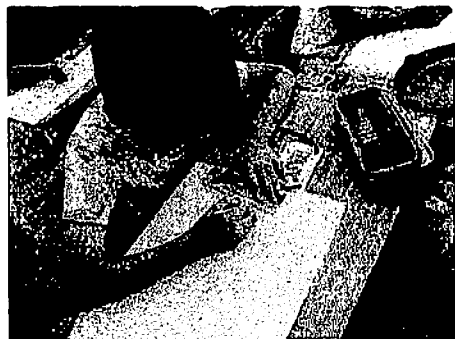
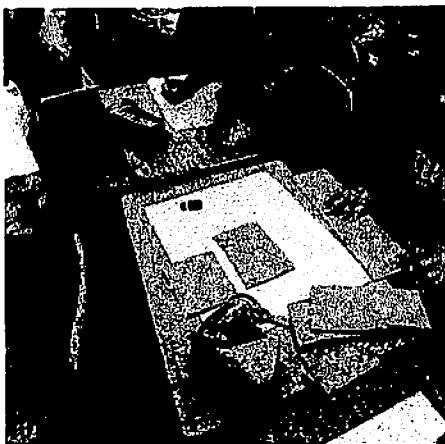
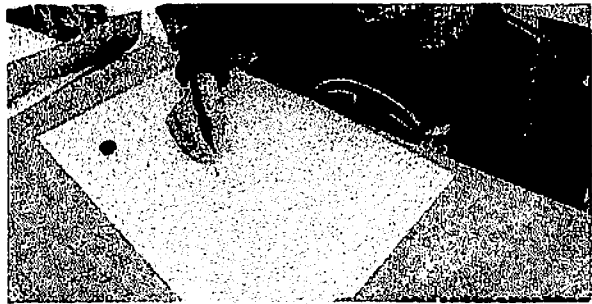
資料⑧ タイピングソフトを活用したローマ字の学習



資料⑨自分の部屋のネームプレートづくりの作品



資料⑩自分の部屋のネームプレートづくりデザインを考えている様子



資料⑪ カルタ取りの様子と使用したカード



DOGS

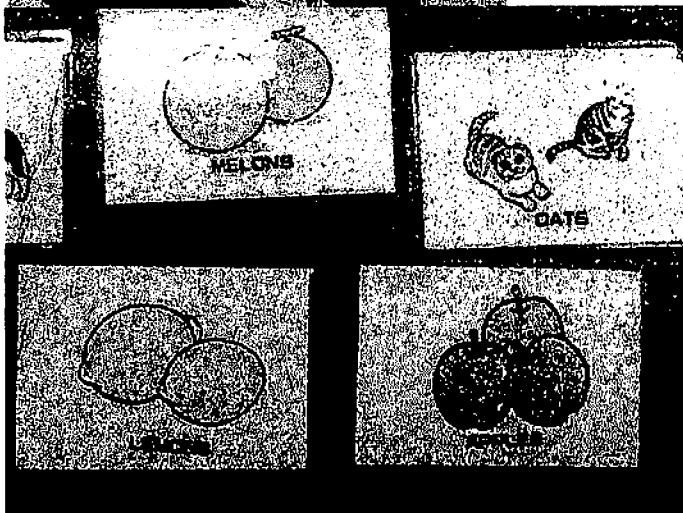
BASEBALL

CATS

APPLES

BASKETBALL

MELONS



LEMONS

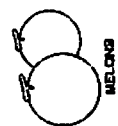
MILK



APPLES



BASEBALL



MELONS



BASKETBALL



DOGS



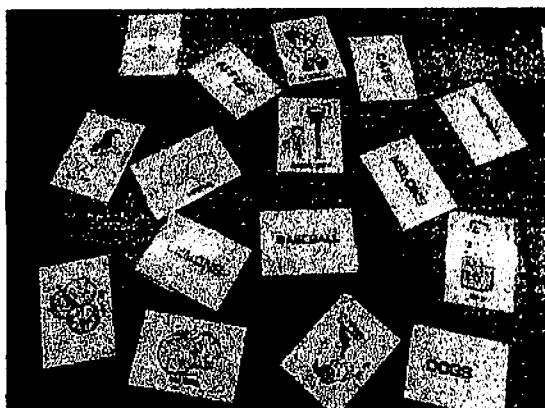
CATS

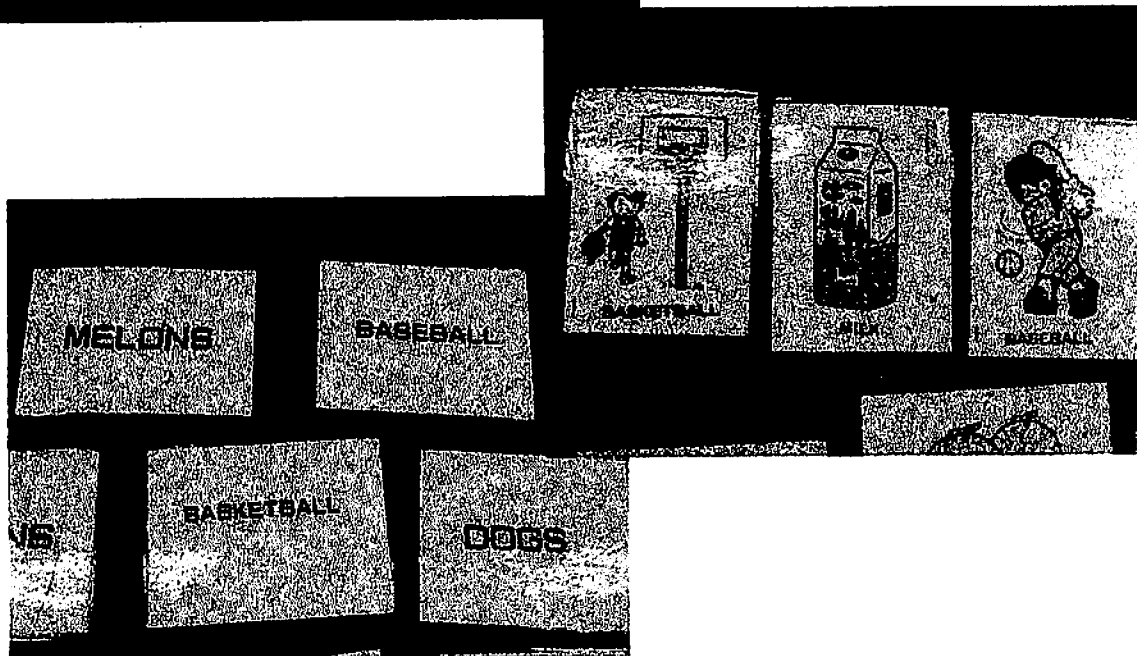
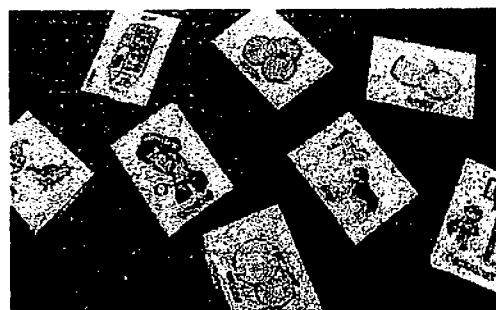
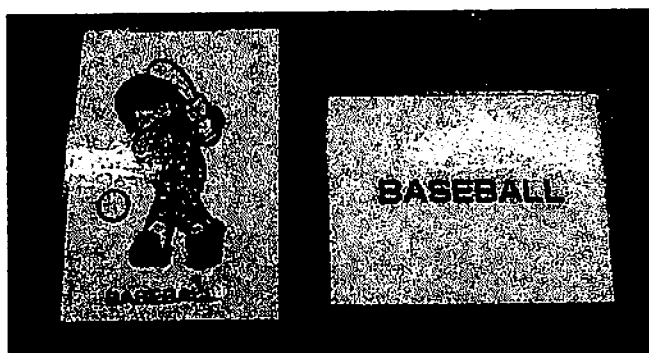


MILK

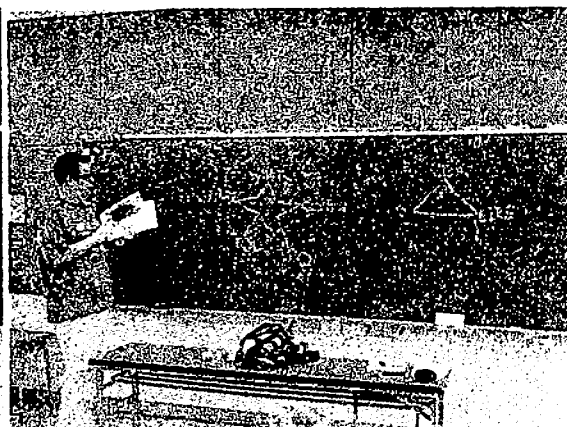
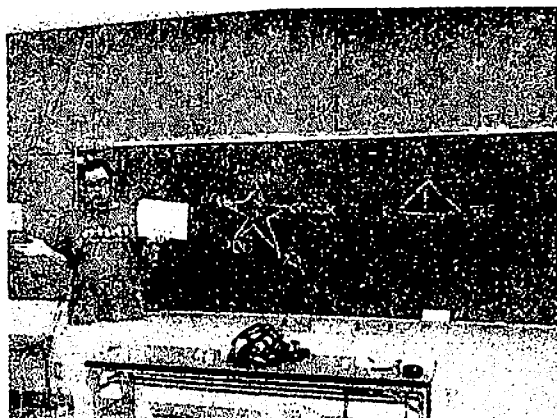


LEMONS





資料⑫ ターゲットセンテンスは板書に残して活動をする



資料⑬ 読みの実態調査記録用紙

NAME ()

○次の英語の読み方や日本語の意味をかいてみましょう。

英語	読み	日本語の意味
1 APPLE		
2 LEMON		
3 STRAWBERRY		
4 CHERRY		
5 PINEAPPLE		
6 BANANA		
7 ICE CREAM		
8 BIRD		
9 RABBIT		
10 DOG		
11 MILK		
12 PEACH		
13 GRAPE		
14 KIWI FRUIT		
15 MELON		
16 ORANGE		
17 BASEBALL		
18 SOCCER		
19 SWIMMING		
20 CAT		
21 SPIDER		
22 BASKETBALL		

ローマ字の読み実態調査

1. KOITO () 2 TOKYO ()

3 CHIBA () 4 SUSHI () 5 KIMITSU
()

外国語活動に関するアンケート

名前 ()

このアンケートは、小学校での外国語活動をもっと良いものにするために行うものです。ですから、学校の成績とはまったく関係ありません。1～5の質問に答えて下さい。わからないものはそのままでけっこうです。

- 1 あなたの知っているアルファベット（大文字）を書いて下さい。

- 2 あなたの知っているアルファベット（小文字）を書いて下さい。わからなければ無理に書かなくても良いです。

- 3 あなたの名前をローマ字で書いて下さい。わからなければ書かなくても良いです。

- 4 次のカタカナをローマ字で書いて下さい。わからなければ書かなくても良いです。

1. バナナ () 2 トウキョウ ()

3 チバ () 4 スシ () 5 キミツ ()

- 5 あなたの知っている英語をできるだけたくさん書いて下さい。まちがっていてもかまいません。

ご協力ありがとうございました。

資料⑮ ローマ字に関するアンケート（引用資料）

【クロス集計の結果】

Q2 あなたはローマ字で書かれた文字をどの程度読めますか。	だいたい読める		どちらかといえば読める			どちらかといえば読めない			読めない	
	14名		6名			10名			10名	
	7		1	3	2	5	4	1	6	4
Q1 あなたは英語の文字を読むことに對してどう感じますか。	とても楽しみ		やや楽しみ			やや不安			不安	
	8名		8名			12名			5名	

引用：埼玉県小鹿野町立小鹿野小学校 瀧沢広人 「教科化に向けて何が変わるのか～これまでの外国語活動を踏まえて～ 小学生の“強み”を生かした英語授業」

2016年2月11日より